

NETWORK

消費者ネット広島第6回定期総会、適格消費者団体記念セミナー

消費者ネット広島は5月10日に定期総会を開催（広島YMCA）、議案すべてが承認されました。総会終了後新たに理事に就任した橋野俊子氏（生協ひろしま理事）から広報活動に力を尽くしたいと挨拶がありました。

つづいて、適格消費者団体としての認定（2008年1月29日）を記念し「安心して契約できる社会をめざして～消費者と行政と事業者の連携を模索して～」と題するパネルディスカッションをおこない、冒頭で来賓の岸田文雄氏（内閣府特命担当大臣国民生活・消費者行政推進担当大臣）、石口俊一氏（広島弁護士会会長）よりご挨拶をいただいた後に、情報収集のあり方や消費者団体と行政・事業者との関係を模索しました。より多くの消費者（消費者団体）や専門家、行政、事業者との連携を促進し、安心してくらせる地域社会の実現にむけて、新たな一步を踏み出します。



住まいのセミナー2008

今年で10回目を迎えた「住まいのセミナー」ですが、すでに2回開催し、参加者から大変好評いただいている。

7月26日（土）「木の住まい入門」のテーマで開催しました。山と街とを結ぶ家づくりのプロセスを紹介。建主さんをゲストに迎え、相談から完成までの工房の家づくり事例を紹介し、建築のプロセスの実際と、設計士と共に『つくる』ことの面白さがわかりました。

8月23日（土）「木の特性を活かした住まい」をテーマの「野外セミナー」で、木材の乾燥工場見学や大工さんの技の説明、椅子作りの体験など、実際に素材に触れ、「木」を体感しました。椅子作りではみな夢中で時間が経つのを忘れているかのようでした。

これからのお申込み

- ◎第3回 9月27日（土）「長耐久の木の住まいのつくり方」
- ◎第4回 10月25日（土）「山のセミナー」
- ◎第5回 11月22日（土）「木の香る住まいへの改修」

※お申し込みは

広島県生協連へ…TEL/082-532-1300 FAX/082-232-8100



広島県消費者団体連絡協議会 総会を開催

広島県消費者団体連絡協議会では2008年度総会を7月14日（月）に開催しました。2008年度の活動として、「環境」と「食の安全」の意識調査に取り組むこと、さらに広島県と共に「消費者のつどい2008」を開催することを確認しました。

※広島県消費者団体連絡協議会：

（社）広島消費者協会・呉市消費者協議会・廿日市市消費者協会・因島消費者協会・広島県地域女性連絡協議会・JA広島県女性組織協議会・広島県生協連の7団体で構成されています。広島県生協連は事務局を担当しています。

「消費者のつどい2008」のご案内

- ◎日時：2008年11月26日（水） 13:30～16:00
- ◎会場：鯉城会館
- ◎講演：「食の安全情報を読み解く」
- ◎講師：松永和紀さん（科学ライター）

第37回 広島県生協大会のご案内

- 日時 2008年10月22日（水） 10:00～12:00
- 会場 メルバルクHiroshima6F 平成の間
- 内容 ○県知事表彰・活動報告
○記念講演：「つながりづくりと協同組合」
講師：京都府立大学教授 上掛 利博さん

平和とよりよき生活のために

広島の せいきょう

第24号 2008年9月30日

広島県生活協同組合連合会発行

〒730-0802

広島市中区本川町2-6-11 第7ウエノヤビル

TEL 082-532-1300

FAX 082-232-8100

URL:<http://kenren.jccu.coop/hiroshima/>

2008年度 県連通常総会開催



6月3日（火）、鯉城会館にて、2008年度県連通常総会を開催しました。はじめに畠田会長理事は、餃子中毒事故が発生したことに対して生協の組織をあげて全力で対応していると述べ、さらに、この4月1日に施行された改正生協法は、生協の社会的役割が認められたからこそ、生協法制定から60年を経て改正されたものであり、原点に立ち戻って活動を進めると決意を述べました。

副知事の城納一昭様をはじめ、来賓のみなさまからは、食品や食糧を取り巻く状況など厳しい環境であるが、共にがんばりましょうと励ましのメッセージをいただきました。

2007年度の活動報告として、暮らし・消費者委員会の砂月理事から、社会保障をテーマに社会保障しらべや学習会を行ったこと、食の安全委員会の橋野理事からは、海外に依存する日本の食事情とそこから発生するリスクについて学ぶとともに、「食生活アンケート」の結果をもとに、食生活の見直し・改善の提案を生協大会で行ったことについて報告がありました。

2008年度の県連の活動方針において、食の安全の取り組みでは、地産地消運動の推進、平和の活動については、学習を基礎に昨年を大きく超える平和署名に取り組むなど、これまでに以上に活動を強化することが確認されました。また生協法改正に伴う、定款、規約等の変更も承認され、新たな役員体制のもと、社会的責任を果たせるよう組織運営を進めます。

コープぼうさい塾「わがまち減災MAPシミュレーション」開催



6月3日（火）に広島県生協連主催でコープぼうさい塾を開催しました。

広島県で初めての取り組みで、地域に広げていくためのファシリテーター養成と位置付け、会員生協の組合員のリーダー、役職員が67名参加したほか、広島県から3名、広島市から22名と多くの防災の担当者がおり、全体で92名の参加となりました。

講師にちはばコープの水島さんを迎え、阪神淡路大震災のDVD上映、そして減災の知識の説明があり、参加者全員が家族との連絡方法や地震が起きたときの行動、家具の固定などあらためて考えさせられました。

次は、各グループでのMAPづくりです。病院や避難所、友人の自宅、障がい者のおられる家などに印をつけます。自分の地域で知らないことが多いことに気づかされます。次にシミュレーションです。自宅と想定した場所から避難しますが、つい自分が避難することだけを考えてしまいます。「友達や寝たきりの人は？自分だけ逃げていいくのですか」と水島さんの指摘で皆ハッとした。救急車の台数も広島市113万人の人口で42台しかない状況で、いかに共助が大事か、あらためて考えさせられます。

楽しく作業を進めながら、日ごろから準備しておくことが大事であること、家族、地域とコミュニケーションを取る大切さを実感しました。

アンケートには、組合員からは、ママ友とやりたい、地域でぜひ広めたい、家族で話し合いたいという意見が多く出され、役職員からは店舗など地域における各事業所の役割は大きく、各事業所でMAPシミュレーションをしたいと積極的な意見が多く出されました。

また、広島県や広島市の方からは、今後の活動に活かせると、という感想のほか、次のような感想もいただきました。「現場活動が長く、助けることに関して知識はいくらかあると思っていますが、『減災』、一人ではなく、多くの人たちを助ける手段については、今度の『ぼうさい塾』で本当に知識を持っていないのだなということを思い知らされました」。消防署の防災に携わる方たちからは、コープの取り組みをぜひ広報したいとのお話をいただきました。

今回の「ぼうさい塾」を機会に、ぜひ広島県内に広げていきます。



2008年度 第1回リーダー研修会

6月3日(火)リーダー研修を開催しました。会員生協 9、地連、他県連で61名が参加しました。「事業運営上で想定される危機管理」と題して、ちばコープ理事長スタッフ、災害担当の水島重光さんにお話していただきました。

ちばコープ餃子中毒事故の経緯と発生現場の対応から振り返って、その時点で現場に情報が届いていなかつたために、混乱が生じたことなど具体的に説明され、総合的な危機管理体制の必要性を強調されました。

餃子中毒事故が起きた当該店舗での記録、そしてその後に行われた組合員、一般消費者を対象とした調査など、貴重な資料を提供いただき、そのときの様子が如実に伝わってきます。時間が短く参加者と意見交換することはできませんでしたが、今後の組織運営に対し、問題提起いただきました。



初級職員研修会

4月9日、鯉城会館で、4生協から入協1~2年目の職員 47名の新人職員が集まり、研修会を行いました。午前中は、「生協の歴史と生協職員の仕事」「医療生協のめざすもの」、「組合員の立場から期待すること」について、3つの講義を聞きました(講師:岡村信秀専務理事、東久保浩喜理事(広島中央保健生協専務理事)、橋野俊子理事(生協ひろしま理事))。午後は、平和公園碑めぐりと、グループに分かれてのワークショップを行いました。

参加者からは、「『できない言い訳ではなく、できる努力を』という言葉が印象に残った」「初めて碑めぐりをし、あらためて戦争の恐ろしさを実感した」「それぞれの生協が社会に貢献していることが良くわかり、誇りがもてた」「グループ討議では全員が発言して、年齢も業種も違う人が団結して作業できたのがよかった」など、感想が寄せられました。入協して1~2年目といつても年代も職種も違うメンバーが本当に熱心に講義を聞き、討議をしました。コミュニケーションがいかに大事か、そして生協の仲間の素晴らしさを実感した研修会でした。

福祉事業推進協議会外部研修報告

県連福祉事業推進協議会では、2008年度最初の事業として、名古屋の南医療生協と愛知たいよの杜の介護の取り組み及び施設見学、さらにめいきん、みかわ市民、南医療生協と「生協間連携、地域の協同について」意見交換し、交流しました。

南医療生協では、介護福祉事業全体の取り組み、生協ゆうゆう村づくり、グループホーム、小規模多機能ホームの設立経緯について説明を受けました。支部を分割して、「顔が見える、声が届く」支部づくりを進め、組合員の自治による運営をしていることなどが報告されました。また、夕方から『ゴジカラ村』に移動して、3生協の理事やNPO法人の代表の方も参加されて、地域の協同について議論しました。その日はケアハウスの食堂で夕食をいただき、古民家に宿泊させていただきました。翌日は緑に囲まれ木を多用した建物と素晴らしい環境の愛知たいよの杜の施設を見学しました。

今回の研修先の生協は、構えず声をかければ集まってこられ、事業連携はないものの、日ごろの交流が盛んであること、南医療生協では組合員自らが決めて、自らが実現するために動くことが徹底されていること、介護の現場では見学療法など積極的に取り入れられ、利用者が主体となった運営がされていることなど、学ぶことが多い研修でした。福祉事業推進協議会では、今回の研修をもとに、それぞれの生協での福祉事業や地域での活動を見直し、今後も協議会の場などを通じて、生協間の連携について議論することにしています。



古民家で各生協の報告と意見交換

2008年度 市民平和行進結団式&ピースフォーラム



市民平和行進結団式には広島県連絡会構成6団体のうち4団体77名(昨年60名)が参加しました。4団体の代表の挨拶の後、岡村県連専務が2008年度市民平和行進の方向性について報告しました。

次にピースフォーラムに移りました。講演の前に、広島中央保健生協のサークル「みんなで健やかな老後を作る会」のみなさんが戦争体験、平和に対する思いを述べられました。平均年齢84歳、最高齢92歳の方たちが戦争中の悲惨な体験、戦争中声を上げられなかったこと、そして今平和を守るために憲法9条を守る活動が重要であることを力強く述べられ、会場の参加者に共感を呼びました。講演は(財)広島平和文化センターのスティーブン・リーパー理事長に「世界にひろげる広島の心 核兵器廃絶の願い」と題して、お話をいただきました。「ヒロシマ・ナガサキ議定書」で核廃絶の道筋を示し、これから加盟都市に働きかけて各団体の賛同を得ること、さらに「都市を攻撃目標にするな(CANT)」プロジェクト署名については、100万筆を超える署名を集めて、国連に持っていくと言われ、市民平和行進についてこれまでにない規模で取り組んでほしいと励まされました。また、唯一の被爆国である日本が世界で果たす役割は大きく国に対する働きかけを強めるよう訴えられました。ピースフォーラム終了後、平和市長会議と合同で街頭署名にも取り組みました。

2008ピースアクション in ヒロシマ開催

日本生協連合会と広島県生協連合会主催で、全国の平和の活動と願いを広島に持ち寄る「ピースアクションinヒロシマ」は、「継承と警鐘～ヒロシマのねがいを世界に～」をテーマに、8月4日～6日まで開催し、3日間でのべ2,000人が参加しました。

8/5 ヒロシマ 虹のひろば

会場/広島県立総合体育館グリーンアリーナ



虹のひろばには全国の生協の組合員1,200人が参加しました。

前半の式典「虹のステージ」では、主催者挨拶(品川尚志日本生協連合会専務)に続き、被爆の証言では作家で脚本家の早坂暁さんから原爆投下後にヒロシマに入ったときのお話、その後「被爆者の絵を街角に返す会」の活動の紹介、さらにつづく核兵器廃絶の活動へ提言をいただきました。秋葉忠利広島市長は、高校生が署名活動を展開していることを紹介し「市民の力で問題を解決する時代。共に核兵器廃絶に向け行動しましょう」とご挨拶いただきました。

後半「みんなのひろば」では、各地からのブース出展コーナーなどで交流しました。昨年に引き続き、「2020ビジョンコーナー」では、映像による紙芝居の上映やクイズを行い、署名の訴えをしました。多くの組合員さんが署名を持ちかえられ、今後各地域で署名活動が広がることでしょう。また、「子どもが描く平和の絵・展示コーナー」「ユニセフすごろくコーナー」「平和アニメ上映コーナー」など、どのコーナーも盛況で、子どもたちも楽しみながら平和について考えました。

オープニング



▲パンフルートの演奏

被爆の証言【早坂暁さん】



▲出版された絵日記を持って説明

秋葉広島市長挨拶



▲力強い訴えでした

虹の合唱団



▲元気な舞台で盛り上がりいました

ユニセフすごろく



▲楽しく遊びました

2020ビジョンコーナー



▲市長の訴えで盛況な署名コーナー

子どもの平和の絵



▲優秀作品に投票しました

各生協のブース



▲どのブースも大賑わい

8月4・5・6日 分科会

碑めぐり、被爆の証言、親子で考えるピースフォーラム、サダコと折り鶴の話など12の多彩な企画で、のべ800人が平和について学びあいました。

碑めぐり



▲碑めぐりガイドのみなさんの説明に真剣な表情の参加者

被爆の証言



▲朗読に聴き入る参加者(朗読と被爆の証言)

親子で考えるピースフォーラム



▲参加者に大変好評でした 戰争とは何かを考えました

7月26日～8月4日 2008市民平和行進

2008市民平和行進では、7月26日から8月4までの間に、計5コース（大竹市・尾道市因島・三次市・福山市・広島市）約700名が参加し、沿道の人々に平和の思いをアピールしました。

◆7/26 西ブロック（139人）



今年は、山口県和木町からスタート。コープやまぐちの組合員・役職員と一緒に。小さい子どもたちも暑いなか、一生懸命歩きました。

◆7/28 東ブロック（108人）



組合員が参加しやすい平日に企画しました。色とりどりの行進になりました。

主催:2008市民平和行進広島県連絡会（構成6団体）

- 広島県原爆被害者団体協議会
- 広島県青年連合会
- 広島県原爆被害者団体協議会
- 広島県宗教者NGO協議会
- 広島県地域女性団体連絡協議会
- 広島県生活協同組合連合会

◆8/2 北ブロック（153人）



三次の街の人たちが私たちのアピールに外に出て応えてくれました。

◆8/4 全体:稻荷橋西詰→平和公園



出發式でメッセージを読む藤井直生君



電車通り、本通商店街を通って平和公園に向かいました。全員で街頭のみなさんに平和をアピールしました。



慰霊碑に向かう行進参加者

供養塔前の広場で集結式を行いました。広島市長のメッセージもいただき、中谷さんが平和のメッセージを読み上げて式を終えました。猛暑でしたが、今年も無事市民平和行進を終えることができました。



主催者を代表して、富田会長理事、被団協の坪井理事長が挨拶



市長のメッセージを代読された島本市民局長



メッセージを読む中谷遙さん

会員生協の平和活動紹介

広島県学校生活協同組合

広島県学校生協では日本生協連、広島県生協連の活動方針に基づき平和を守る活動に取り組んできました。ピースアクションinヒロシマでは例年「みんなのひろば」に被爆アオギリを題材とした絵本とヒロシマ平和カレンダーを展示し、カレンダーの無料配布を行っています。また、平和の絵展示コーナーへの出展や「虹のステージ」、「分科会」へも組合員さんが参加しています。市民平和行進では県内全地域での職域という特性を生かして全てのコースに参加しています。

教育現場では組合員さんが8.6原爆記念日を中心として平和教育の実践に取り組んでいます。

世界の核兵器をめぐる状況は拡散に歯止めがかかっていません。被爆地ヒロシマの生協として、平和の取り組みにより多くの組合員さんが参加し、核廃絶に向け反核の声を高めていくことが今後の課題です。



「みんなのひろば」盛況な学校生協のコーナー

広島医療生活協同組合

「原爆被害者の会」が2005年まで発行していた被爆体験記「ピカに灼かれて」、その製作を職員が引き継いで今年で3年目。被爆者から聞き書きをし、7月10日に完成。祝賀会が開かれました。

この取り組みは、2年目職員の研修に位置づけています。今年は37名が被爆者10名から直接被爆体験を聞き「ピカに灼かれてpartⅡ 第3集」(A4判53頁)にまとめました。

今回の体験記は、若い職員が被爆体験の聞き取りをとおして、自らの生き立ちを振り返り平和の大切さ、被爆の実相を後世に伝えていく決意があふれるものになっています。63年が経過し被爆体験の継承は今後ますます難しくなっていきますが、若い世代に確実に受け継がれていく確かな一歩が始まっていることを実感します。



被爆者から聞き取りしているところ

広島中央保健生活協同組合

学習活動では、6月下旬から平和に関するパンフレットを活用し、職場で学習会を開催し約360人の職員が学習しました。また、福島生協病院の齋藤紀名誉院長を講師に「原爆症認定集団訴訟」の学習会を2回開催し延べ63人の職員が参加しました。平和行進には150人（組合員、職員）が参加しました。8月6日朝のつどいでは200人が参加し、①福島地区慰霊碑前のつどい ②映画「ピカドン」「予言」鑑賞 ③講師に広島共立病院の丸屋博名誉院長をむかえ、「若い世代へ伝えたいこと」の講演を実施し平和について考える一日になりました。原水爆禁止世界大会（広島）にも約60人（組合員、職員）が参加しました。これらの企画を財政的に支えるためフリーマーケット・地域募金活動にもとりくみました。これら平和のとりくみを盛り上げるために折鶴を折り、事業所に掲示しました。



慰霊碑前のつどい

福山医療生活協同組合

◆聖イエス会福山教会 福山市久松台3丁目15の2 電話084(922)3517

9月12日聖イエス会福山教会で、福山医療生協神辺支部の《サークル平和のつどい》を12人の参加で開催しました。松田牧師が沖縄の戦跡で集められた沖縄戦の資料を見学、松田牧師から沖縄戦の体験を踏まえたお話を聞きしました。資料には火炎放射機で焼かれた、黒こげの軍靴・毛布などをはじめ、日米両軍の手りゅう弾・迫撃砲弾や、住民の「自死」に使われたカマ・包丁・剃刀・注射器などが生々しく、私たちの心をうちました。お話を沖縄本島の地図やパネルを示しながら、ご自身の戦争体験から、沖縄での戦前の日本軍基地構築、日米両軍の戦い方、住民を巻き込んだ凄惨な戦場、捕虜になることを許さない日本軍のありかた、戦場での子供の姿など沖縄戦全般、そして米軍統治下の沖縄に及びました。ご自身の人生をかけたキリスト教との出会い、牧師としての平和を求める取り組み、そのための資料収集活動にもおよび深い感銘を受けました。



資料を説明する松田牧師（正面）

生活協同組合ひろしま

「折りづるナイター」で核兵器廃絶をアピール！

8月26日（火）、広島市民球場で「折りづるナイター 広島東洋カープVS東京ヤクルトスワローズ」（主催：（財）広島平和文化センター、協力：生協ひろしま・日本生活協同組合連合会、ほか）が行われ、（財）広島平和文化センターと生協ひろしまが協力して平和のメッセージを発信しました。「折りづるナイター」は、広島の復興の象徴とも言える広島市民球場で平和市長会議（議長、秋葉忠利広島市長）が進める「2020ビジョン」の主な取り組みである「都市を攻撃目標にするな（CANT）プロジェクト」への市民署名活動を行うとともに、球場内ではカープの応援を通じて核兵器廃絶を願う平和のメッセージを発信しようという試みでした。

球場周辺で行われた署名活動では、県内の高校生や生協ひろしま組合員など約160名が参加。時折雨が降る中でも署名活動は続き、約3時間で3,721筆を集めることができました。また、球場内では5回終了時に観客16,010名とともに平和市長会議のイメージカラーのグリーンのボードを掲げ、核兵器廃絶をアピール。球場はグリーン一色に染まり、市民の球場から核兵器は要らないといいう意思表示を行うことができました。



スタンドは、平和を訴えるグリーン一色に染まりました

日立造船因島生活協同組合

今年で6年目を数える「日立因島生協市民平和行進」には112名が参加しました。行進者は薄れゆく戦争記憶と、体験者が少なくなる今、争いがいかに悲惨で愚かな行為かを警鐘して、伝い繋がれる様沿道の皆さんに向って、大きな声でアピールしながら、尾道市因島を行進しました。

終結式は「ポートピアはぶ多目的ホール」において、地元バンドの「アンダーグランドバンド」の皆さんによる、ミニライブを楽しみ、全員で「1本の鉛筆」(美空ひばり)と「千の風になって」を合唱しました。今年の「ヒロシマ虹のひろば」には、初めて子供達の参加を呼びかけバス2台88名(内子供28名)で参加し、若いお母さん達にも、全国規模の生協平和活動を見てもらいました。平和は人類全ての願いです。この願いが確かな未来へ継承されるように、活動をすすめております。



会員紹介



広島県学校生活協同組合

〒732-0052 広島市東区光町2丁目8-32 TEL:082-264-3311

- | | |
|-------------------|---|
| ◎ 代表者名 理事長 研本 正明 | ◎ 設立登記年月 1948年12月 |
| ◎ 組合員数 19,755人 | ◎ 活動エリア 広島県内の小・中学校、共同調理場、幼稚園、保育所、教育委員会及び教育団体の職域 |
| ◎ 事業高 1,265,851千円 | ◎ 役員数 (常勤理事)2人、(非常勤理事)19人、(非常勤監事)4人 |
| ◎ 出資金 442,719千円 | ◎ 職員数 (正規)7人、(嘱託)2人、(定時)5人 |

広島県学校生活協同組合は小・中学校、共同調理場、幼稚園、保育所、教育委員会及び教育団体に勤務する教職員の福利厚生活動として、チラシ・カタログによる共同購入や週配共同購入、商社と提携しての職場訪問や展示会による供給活動などに取り組んでいます。また、生損保会社と提携して独自共済の供給や団体契約による保険金収納代行業務も行っています。

本年度は組合設立60周年を迎えました。この間、組合員の信頼に支えられ活動してきました。今後も「食の安全」「くらしの安心」「平和・環境・人権を守る」取り組みをより一層進めます。



2008年度 総代会



広島県高等学校生活協同組合

〒730-0047 広島市中区平野町8-15 TEL:082-244-2311

- | | |
|-----------------|-------------------------------------|
| ◎ 代表者名 理事長 有田 耕 | ◎ 設立登記年月 1957年1月 |
| ◎ 組合員数 6,777人 | ◎ 活動エリア 広島県内の高校・特別支援学校の職域 |
| ◎ 事業高 797,616千円 | ◎ 役員数 (常勤理事)1人、(非常勤理事)30人、(非常勤監事)5人 |
| ◎ 出資金 220,430千円 | ◎ 職員数 (正規)4人、(定時)12人 |

1956年4月に広高教組定期大会において生活協同組合の設立が決定され、同年6月に設立総会を開催しました。広域職域生協として52年目を迎えています。

主な事業は、カタログ・CO-OP商品・共同購入などを中心とした自主供給、指定商社・ガソリン・百貨店・自動車整備工場などを中心とした指定店供給(斡旋供給)及び教職員共済の受託共済事業などです。

2008年度は、新定款のもとで、ガバナンスを強化し、経営基盤の安定に努め、全国の学生協との連携を深めつつ、全国的にも稀な高校生協としての職域の特性を活かし、組合員の福利厚生の充実を図ります。



2008年度 総代会



広島大学消費生活協同組合

〒739-0046 東広島市鏡山1丁目4-5 広島大学会館内 TEL:082-424-2525

- | | |
|-------------------|-------------------------------------|
| ◎ 代表者名 理事長 田中 秀樹 | ◎ 設立登記年月 1972年2月 |
| ◎ 組合員数 20,965人 | ◎ 活動エリア 広島大学の職域 |
| ◎ 事業高 3,536,648千円 | ◎ 役員数 (常勤理事)4人、(非常勤理事)26人、(非常勤監事)6人 |
| ◎ 出資金 276,637千円 | ◎ 職員数 (正規)32人、(定時)150人 |

今年度は、組合員に寄り沿い、組合員の生活により役立ち、潤いと楽しさをもたらす活動に取り組みます。また、魅力ある広島大学づくりを支援し、組合員がより豊かなキャンパスライフを送ることができるよう努力します。活動方針の主な構成は次のようになっています。

- 1.組合員の生活に潤いと楽しさを
 - (1)組織部(OZ)の活動、(2)教職員・院生組織委員会の活動、(3)生協など編集委員会の活動、(4)健康な食生活を目指す活動、(5)助け合いと安心・安全な生活を目指す活動、(6)暮らしと環境を考える活動
- 2.組合員の生活から組織・事業の運営を
 - (1)組合員の声を聞く活動、(2)組合員とともにつくる活動、(3)重点事業



レジ袋削減への協力を呼びかけるポスター
レジ袋お渡し枚数が半減近い結果になっています。

広島修道大学生活協同組合

〒731-3195 広島市安佐南区大塚東1丁目1-1 TEL:082-848-1097

- | | |
|------------------|-------------------------------------|
| ◎ 代表者名 理事長 針持 和郎 | ◎ 設立登記年月 1972年11月 |
| ◎ 組合員数 6,536人 | ◎ 活動エリア 広島修道大学内 |
| ◎ 事業高 805,676千円 | ◎ 役員数 (常勤理事)1人、(非常勤理事)14人、(非常勤監事)3人 |
| ◎ 出資金 64,337円 | ◎ 職員数 (正規)4人、(定時)23人 |

学校の福利厚生事業の担い手として、学生・教職員・組合員に良い品をより安く、より便利に提供するとともに、教育・研究の場にふさわしい様々な事業を行っています。購買・書籍・旅行サービス。カフェテリアを中心とした生協店舗は、組合員の憩いの場であり、勉学研究を支える場となっています。また、「もしもの時はみんなの力で」をモットーに、学生が安心して生活できるよう、共済事業にも取り組んでいます。



新入生交流会の様子



広島医療生活協同組合

〒731-0121 広島市安佐南区中須2丁目19-6 TEL:082-879-8124

- | | |
|-------------------|-------------------------------------|
| ◎ 代表者名 尾野 展昭 | ◎ 設立登記年月 1967年2月 |
| ◎ 組合員数 44,393人 | ◎ 活動エリア 広島市内を中心に県内全域 |
| ◎ 事業高 4,796,490千円 | ◎ 役員数 (常勤理事)9人、(非常勤理事)16人、(非常勤監事)4人 |
| ◎ 出資金 997,419千円 | ◎ 職員数 (正規)380人、(定時)153人 |

2008年度は老人保健法がついに廃止となり、特定健診・特定保健指導と後期高齢者医療制度が始まるなど、医療制度は大きく変えられます。住民・組合員の生命と健康を守る上でも、医療生協の運動と事業を発展させる上でも、様々な困難の増大が予想されます。住民の生命と健康を守る医療生協への期待はますます大きくなります。

私たちは、組合員(住民)の健康な生活を送る権利を守り、そのための制度の充実を求めるとともに、その前提である平和を守る運動を進めます。保健～医療～介護の主体である利用者の権利を尊重し、利用者とともに歩む姿勢で、誠実なサービスを提供し、その満足度を高めていきます。



子どもの歯みがき教室



福山医療生活協同組合

〒720-0082 福山市木之庄町3丁目6-10 TEL:084-973-2280

- ◎代表者名 理事長 服部 融憲 ◎設立登記年月 1980年1月
- ◎組合員数 10,930人 ◎活動エリア 県東部一円
- ◎事業高 534,530千円 ◎役員数 (常勤理事)3人、(非常勤理事)12人、(非常勤監事)3人
- ◎出資金 349,070千円 ◎職員数 (常勤)57人、(非常勤)31人、(登録ヘルパー)23人

福山医療生協には11の支部があり、5つの支部センターがあります。その内4つの支部センターで地域の方を対象に催しを開催しております。3つの支部で昼食会をしており、その内の1支部は週1回実施しております。2つの支部センターは広々と余裕があり、公民館のようにサ-クル活動にも活発に活用されています。また、夏休みには子供企画として、子供たちでカレーブリト紙芝居、竹を切って本格的なそめん流し等、貴重な体験と思い出づくりになっています。今後、支部で事業所づくりをしたいという声も出ており、生協として基準を整備する必要性を考えております。また、ボランティア教室、介護教室、認知症センター養成講座を開いていきます。



昼食会準備



生活協同組合ひろしま

〒739-0495 広島県廿日市大野原1丁目2-10 TEL:0829-50-0350

- ◎代表者名 理事長 林辰也 ◎設立登記年月 1971年5月
- ◎組合員数 356,855人 ◎活動エリア 県内全域
- ◎事業高 44,685,865千円 ◎役員数 (常勤理事)3人、(非常勤理事)22人、(非常勤監事)1人、
(常勤監事)4人
- ◎出資金 12,133,909千円 ◎職員数 (正規)651人、(定時)1,545人、(福祉専門員・ヘルパー)632人

2008年6月6日に第24回通常総代会を開催しました。今年度は、1月に発生した中国加工餃子からの農薬成分検出を受けて、食の安全に対する対策、生協法改正に伴う定款・規約の変更、元受共済事業から受託共済事業への移行についても協議をおこないました。

2008年度方針は「安全・安心な商品やサービスの提供により、組合員の暮らしに貢献します」、課題として「安全な商品の提供をするために、『原料』『製造』『お届け』すべての面で様々な取り組みを進めます」「私たちの『食』や『農』を守り育てるために、地産地消・産直の活動を一層進めるとともに、自給率や農産の状況について学び、意見を交わし、提言をおこないます」を含め6項目を掲げました。特に「食の安全」については、

組合員のみならず消費者すべてから生協に対して望まれていることであり、見直しと再構築に改めて取り組むことを組合員と約束しました。



2008年度 総代会



広島中央保健生活協同組合

〒733-0023 広島市西区都町42-7 TEL:082-292-3179

- ◎代表者名 理事長 吉富 啓一郎 ◎設立登記年月 1955年9月
- ◎組合員数 34,637人 ◎活動エリア 広島市内を中心に県内全域
- ◎事業高 4,413,500千円 ◎役員数 (常勤理事)9人、(非常勤理事)16人、(非常勤監事)4人
- ◎出資金 939,287千円 ◎職員数 (正規)380人、(定時)288人

当生協は国民皆保険制度実施以前の1955年、だれもが健康で安心して住めるまちづくりのとりくみのなかで診療所として誕生しました。現在もその精神を引き継ぎ、34,000人の組合員が「地域まるごと健康づくり」「明るいまちづくり」をすすめています。

【2008年度方針の概要】

- 1.保健生協の4つのつくる運動
 - ①健康をつくる運動 ②「満足」できる事業をつくる運動
 - ③安全・安心・暮らしやすい「まちづくり」の運動 ④大きくて、強い生協組織をつくる運動
- 2.虹の7目標に挑戦 ①4万人組合員の達成 ②2億円の出資金ほか
- 3.3つの視点 ①サービス提供の拡大と利用者増 ②「医療・介護・助け合い事業」づくり
 - ③暮らしを支援する事業とネットワークづくり



歯みがきチェック



竹原生活協同組合

〒725-0026 竹原市中央1丁目9-11 TEL:0846-22-2636

- ◎代表者名 理事長 武田 孝治 ◎設立登記年月 1964年4月
- ◎組合員数 11,156人 ◎活動エリア 竹原市・三原市・呉市・東広島市・広島市等9市6町
- ◎事業高 1,026,885千円 ◎役員数 (常勤理事)7人、(非常勤理事)8人、(非常勤監事)4人
- ◎出資金 380,524千円 ◎職員数 (正規)30人、(定時)43人

1964年4月に、三井金属竹原製錬所(株)の職域生協として設立され、店舗・宅配・燃料・共済の4つを柱に事業を展開しています。

竹原市・東広島市に3店舗営業し、20年前より週2回配達料無料の宅配を行い、1万人強の地域生協になりました。

2008年5月24日(土)に、第45回通常総代会を開催し、11の議案すべてが賛成多数で可決決定されました。竹原生協をとりまく環境も、依然厳しい状況にありますが、原点に戻り、食および暮らしの安全・安心をよりいっそう推進し、4つの柱を中心に組合員である利用者は利用しやすい事業体をめざします。



2008年度 総代会



グリーンコープ生活協同組合ひろしま

〒731-0103 広島市安佐南区緑井1丁目28-47 TEL:082-831-1503

- ◎代表者名 林和子 ◎設立登記年月 1993年6月
- ◎組合員数 17,595人 ◎活動エリア 県内全域
- ◎事業高 2,996,284千円 ◎役員数 (常勤理事)4人、(非常勤理事)20人、(非常勤監事)3人
- ◎出資金 474,567千円 ◎職員数 (職員)66人、(定時職員)72人

「もっとひろがれグリーンコープの輪」を2008年度の基本方針に活動・事業をすすめています。とくに子育て世代を対象とした活動は「赤ちゃんすくすく個配」を始めて以降、「ママ応援便」「子ども料理教室」に加えて組合員の自主活動サークル「子育てサークル」などに広がっています。

子育てサークルは県西部の廿日市・大竹地域から県東部の福山市まで11サークルあり、子どもを中心として子育て真っ最中のお母さんが集まり、毎月2回程度、自分たちで企画を作り、公民館や集会所を使って活動しています。人形劇、ミニコンサートや季節の行事(七夕、クリスマスほか)をしています。さらにグリーンコープの商品のこと、環境の問題、石けんの学習なども行い、子どもたちが生きて行く環境作りのことも自主学習しています。

2008年度は子育てが終わった世代の組合員を対象とした行事も始めています。



子育てサークルの石けん学習会



日立造船因島生活協同組合

〒722-2324 尾道市因島田熊町4508-1 TEL:0845-22-2500

- ◎代表者名 理事長 岡野 龍広 ◎設立登記年月 1949年11月
- ◎組合員数 11,797人 ◎活動エリア 尾道市因島、瀬戸田町、愛媛県越智郡上島町(弓削島・生名島・岩城島・佐島)
- ◎事業高 2,849,780千円 ◎役員数 (常勤理事)6人、(非常勤理事)9人、(非常勤監事)3人
- ◎出資金 344,536千円 ◎職員数 (正規)43人、(定時)73人

日立因島生協は、今年11月で創立59年を迎えます。店舗事業(食品店舗7店、衣料店舗1店)共同購入(1支所)葬祭事業(ホール1仮壇店2店)外食事業(2店)職域事業(4店)で展開しています。

20年度基本方針は、(1)経営構造改革をすすめ、適正な経常剰余金の確保をします。(2)経費削減の推進 (3)効率的な労働力の確保と人材育成。(4)事業構造改革をすすめ、組合員に支持される事業を確立します。(1)店舗事業の確立 (2)個配事業を軸とした無店舗事業の拡大 (3)葬祭事業の確立と関連事業の拡大。(4)組合員活動の活性化と参加への促進を図ります。(1)組合員参加の見直し (2)地域におけるコミュニティ活動の推進。以上を取り組みます。また、食の安全安心が揺らぐなか、生協が扱っている商品が全て、コープブランドであることを職員が認識し、組合員の信頼に応えて行く努力をいたします。



2008年度 総代会



生活協同組合連合会コープ中国四国事業連合

〒739-0496 広島県廿日市市大野原1丁目2-10 TEL:0829-50-0633

◎代表者名 理事長 三橋 幸夫	◎設立登記年月 2005年10月
◎組合員数 1,500,760人	◎活動エリア 9生協(鳥取県生協、生しまね、生協おかやまコープ、生協ひろしま、コープやまぐち、とくしま生協、コープかがわ、コープえひめ、こうち生協)
◎事業高 1,953億2千万円	
◎出資金 出資金 715百万円	◎役員数 (常勤理事)3人、(非常勤理事)17人、(非常勤監事)3人
(何れも9生協合計)	◎職員数 (正規職員)99人、(嘱託職員)3人、(定時職員)6人、(派遣職員)33人

～くらしへの最大貢献を目指して～

2008年6月4日(水)に開催された第3回通常総会では、全ての議案が圧倒的多数で可決されました。

2008年度より始まる第2次中期計画では、「仕入の共同(商品機能)」から「商品事業の協同(システム・物流)」へ向けた「基盤整備」を目指しています。

中期計画初年度である2008年度は、「事業連合として“貢献”を確実に具現化する」年と位置づけています。会員生協、会員生協組合員の意見や声を“聴き”、組合員の信頼や安心を最優先に事業を組み立て、組合員のくらしや会員生協の経営に貢献します。



第3回通常総会



広島県労働者共済生活協同組合

〒732-8505 広島市東区曙4丁目1-28 TEL:0120-39-6031

◎代表者名 理事長 小田一幸	◎設立登記年月 1959年1月
◎組合員数 380,832人	◎活動エリア 全県
◎事業高 97,867千円	◎役員数 (常勤理事)2人、(非常勤理事)23人、(非常勤監事)3人
◎出資金 2,593,167千円	◎職員数 (正規)1人、(他、全労済県本部(正規)33人、(定時・派遣等)35人)

広島労済(全労済広島県本部)2008年度活動計画は「第5期計画方針」ならびに2007年度の取り組みを基本としながら、2007年度の活動を総括した上で補強政策を追加していきます。

【第5期計画基本方針】

- 1.組合員の満足度を最優先した事業運営の実現
- 2.地域推進の検証と対応力の強化
- 3.生活保障設計運動を機軸とした推進活動の展開
- 4.団塊世代への推進対策の着実な実行
- 5.広島労済50周年への対応

50周年記念事業として広島・福山地区で記念事業を実施します。重点共済として火災共済・自動車共済推進キャンペーンを実施します。コンプライアンス強化と透明な事業運営と情報公開による社会的信頼の向上に努めます。生協法改正に伴い、共済代理店設置に向けた諸活動を開催します。



第50回通常総代会



広島県住宅生活協同組合

〒732-0817 広島市南区比治山町2-5 TEL:082-262-4311

◎代表者名 理事長 小川正継	◎設立登記年月 1961年9月
◎組合員数 6,377人	◎活動エリア 広島県内全域
◎事業高 2,443,808千円	◎役員数 (常勤理事)6人、(非常勤監事)2人
◎出資金 69,740円	◎職員数 (正規)20人

私たち住宅生協は、今年9月で創業47年を迎えます。「勤労者に安価で良質な住宅を提供する」を基本理念に掲げ、常に最新最高の住宅を非営利で造り続けてきました。全国の住宅生協にとって、私たちの生協の取り組みが、生き残りのモデルケースとして注目されているなかで、その責任と重さを自覚し、「自己決定と自己責任」「非営利」「相互扶助」を基本に取り組みを続けていきます。

右の写真は、現在建築中の「ルミナス舟入本町リバーフロント」です。完成は21年5月末予定。場所は舟入本町1-1。2LDKから4LDKまで、20階建て158戸という通常の2倍の規模です。眼下に映る本川の水面は清々しく、その眺望は市内屈指のものと期待されています。

お問い合わせは、ルミナスホーム 0120-51-6374(担当)佐々木、モデルルームは、広電「舟入町」電停西側にあります。



県連の紹介

《概況》

昨年9月に創立40周年を迎えた広島県生協連は、2007年度末で14の会員生協に延べ91万9千世帯の組合員が加入する県内最大の消費者組織になっています。

会員は、購買生協(地域・職域)6、医療生協3、大学生協2、労済生協1、住宅生協1、事業連合1で構成されています。

2007年度は会員生協の経営基盤強化や連帯活動、安心して暮らしがやすい地域社会づくりなどの重点課題達成のために、行政や地域のネットワークを強める活動を進めてきましたが、これらの活動のほかに、40周年の記念行事、生協法改正に伴う業務、また広島県生協連の事務所の移転などの諸課題にも取り組みました。

2008年度は、ガソリンや食糧などの生活必需品の値上げや社会保険料の負担増など組合員のくらしは厳しくなり、中国製ギザーガの中毒事故など食の安全の問題で生協への組合員の信頼もゆらいでいます。この厳しい環境のなかで、広島県生協連は、会員生協と一丸となって、食の安全やくらしの安心にかかる諸課題の取り組みをさらに強めていきます。

役員構成

会長理事 富田巖(生協ひろしま特別顧問)

副会長理事 田頭俊彦(日立造船因島生協顧問)

専務理事 岡村信秀(常勤)

常務理事 坂本裕(広島医療生協専務理事)

高井章平(広島労働者共済生協専務理事)

土井律紀(生協ひろしま副理事長)

仁田祥男(広島県高等学校生協専務理事)

理理事 宇田川和代(広島医療生協副理事長)

神尾容子(日立造船因島生協理事)

竹内佳代(生協ひろしま理事)

武田孝治(竹原生協理事長)

田中嘉市(広島修道大学生協専務理事)

東久保浩喜(広島中央保健生協専務理事)

難波隆宏(広島県学校生協専務理事)

野村文孝(グリーンコープ生協ひろしま常務理事)

橋野俊子(生協ひろしま理事)

松山智(福山医療生協専務理事)

吉山功一(広島大学生協常務理事)

監事 櫻敬公(広島県住宅生協専務理事)

大越和郎(広島中央保健生協副理事長)

金井保(生協連合会コープ中国四国事業連合常務理事)



2008年度広島県生協連総会

2008年3月末現在

会長理事 富田巖

会員数 14生協
(休止1生協を除く)

総組合員数 919,878人

総出資金 19,120,152千円

総事業高 73,881,462千円

設立登記年月日 1967年9月6日

「都市を攻撃目標にするな(CANT)プロジェクト」署名について

2008年9月5日現在 72,433筆(2008年度目標 10万筆/達成率72.4%)



2007広島県生協大会終了後、平和の署名にも取り組みました。

広島県生協連では昨年からCANT署名に本格的に取り組み、2007年度は2万6千筆集めました。2008年度は会員生協がそれぞれ目標を持ち、現在のところ、昨年の3倍近い7万2千筆の署名が広島県生協連に届いています。

9月11日現在、これまで平和市長会議の事務局に届けられた署名の数は約26万筆(2008/9/11現在)で、そのうち、生協関係が22万3千筆、平和・被爆者団体が2万6千筆、市民などその他が1万筆の署名を集めています。

東京都連はこの秋から100万筆の署名を目標に取り組まれることになりました。11月19日には秋葉広島市長を迎えての学習会やチラシ、リーフレットの作成など着々と準備をされています。

虹のひろばでの秋葉広島市長の呼びかけ、2020ビジョンコーナーでの取り組みで、虹のひろばに参加された組合員の方たちが全国各地で署名を集め、その活動は全国に広がっています。

広島県生協連としても今後も10万筆の目標達成に向けて引き続き取り組んでいきます。

多くの署名を国連に届けて、2010年のNPT再検討会議では、核兵器禁止の合意を実現し、2020年までに地球上から核兵器をなくしましょう。